

漁業と弁当屋の関係

1年4組 稲垣 雄斗 1年1組 岩村 健太 1年2組 宮本 鎌慎
1年4組 谷本 淳晟 1年4組 日多 宏斗
指導者 浦辻 規幸

1 背景・目的

図1に示すよう、漁業と弁当には密接な関係がある。また、宇和島東高校がある宇和島市では宇和島市役所の水産課が『宇和島旬のさかな』パンフレット^[2]を作成するなど、宇和島での漁業・養殖業について広報しており、宇和島市における漁業の重要性が窺える。そこで本研究では宇和島市の漁業とお弁当の関係について調査を行う。



図1 昭和期、漁師が携行した曲物の弁当容器^[1]

2 仮説

漁業は鮮度の重要性が高く、流通の時間を逆算すると、漁業従事者の方は朝早く就業せざるを得ない。またお弁当は食事する場所・時間を自由に選ぶことが利点の一つである。そこで本研究では、漁業従事者の海上での食事はお弁当に依存すると可能性が高いと考え、「漁港に近ければ近いほど、より多くの弁当屋が存在しているのではないか」、また「漁業従事者が多いほど弁当屋が多いのではないか」という仮説を立てた。

3 方法

(1) 調査1 漁港からの距離と弁当屋の密度の関係

四国四県の漁港（宇和島港、高松港、徳島港、横浜港）について以下の方法で調査する。

ア 弁当屋の漁港からの距離を測定

イ 漁港からの単位距離別に店舗数を求めて、密度を算出

(2) 調査2 漁業従事者数と弁当屋数の関係

四国四県について漁業従事者数と弁当屋数の関係を調査する。

ア 対象地域の市町村毎の漁業従事者数を調査

イ 同地域の弁当関連の店の店舗数を調査

(3) 調査1、調査2に使用したデータ

ア 弁当屋の住所；「タウンページ」^[3]

イ 各市町村における漁業従事者数；「2013年漁業センサス」^[4]

※本研究では海上漁業従事者数を漁業従事者数とした。

ウ 二点間の距離；「グーグルマップ」^[5]

4 結果

(1) 調査1 漁港からの距離と弁当屋の密度の関係を図2、3に示す。

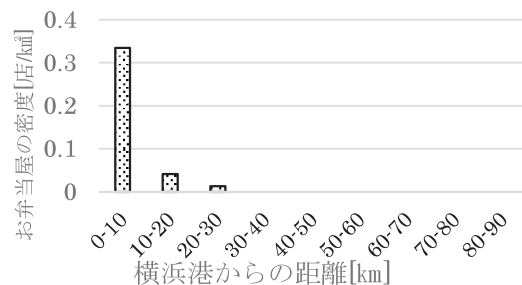
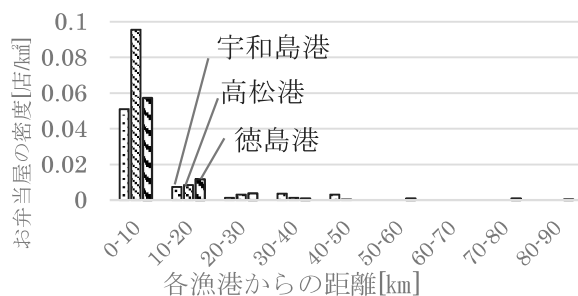


図2 漁港からの距離と店舗の密度の関係

図3 漁港からの距離と店舗の密度の関係

(2) 調査2 漁業従事者数と弁当屋数の関係を図4～7に示した。×は県庁所在地を示す。

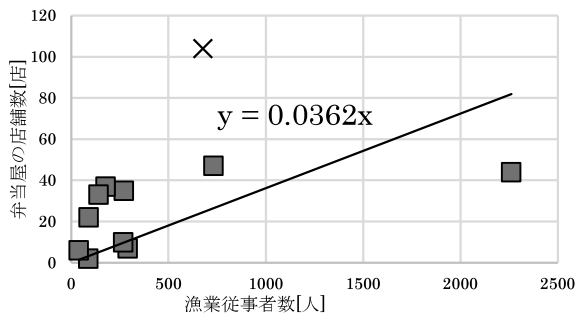


図4 愛媛の漁業従事者数と店舗数の関係

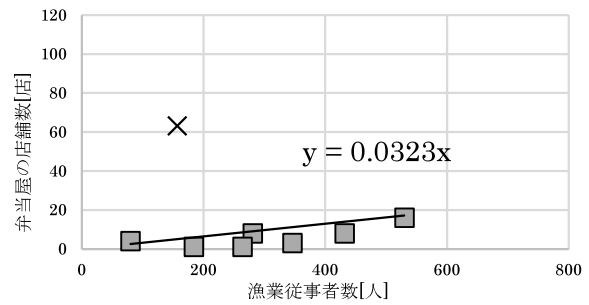


図5 徳島の漁業従事者数と店舗数の関係

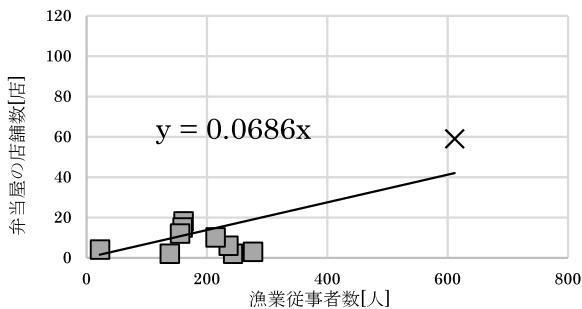


図6 香川の漁業従事者数と店舗数の関係

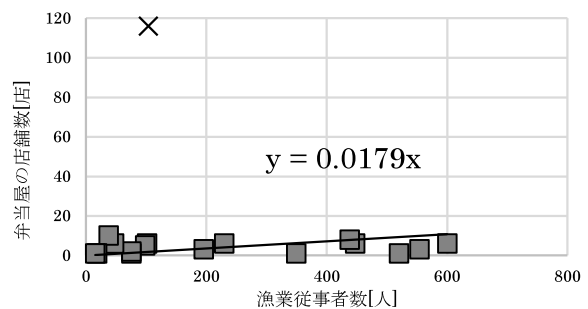


図7 高知の漁業従事者数と店舗数の関係

5 考察

(1) 調査1について

漁港から近い場所ほど弁当屋が多くあり、仮説を裏付ける結果となった。このことより、弁当と漁業には密接な関係があると考えられる。

(2) 調査2について

各県の県庁所在地を除き、比例関係となっている結果が得られた。しかし高知はグラフ上の傾きが小さく、弁当屋に対する依存度が小さい結果となっている。表1に四国四県における沿岸漁業と遠洋漁業の従事者数を示す。表1より高知は沿岸漁業の割合が少ないため、弁当屋に対する依存度が低く、香川は沿岸漁業の割合が多いため、弁当屋への依存度が高くなっていることが示唆される。また、愛媛県の(2261,44)の点である宇和島において高知県と傾向に近い。

表1 漁業者数^[6]

	沿岸漁業者 [人]	沖合・遠洋 漁業者[人]
徳島県	2,929	521
香川県	3,556	80
愛媛県	10,751	300
高知県	4,696	1,128

6 まとめと今後の課題

漁業と弁当に密接な関係を明らかにすることができた。今後は、他県でも行いたい。

参考文献

- [1]「文化遺産オンライン」 <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/288679>
- [2]「宇和島旬のさかなパンフレット」 <https://www.city.uwajima.ehime.jp/>
- [3]「タウンページ」 <http://www.denwacho.ne.jp/>
- [4]「漁業センサス 2013 年漁業センサス 確報」 <https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003124210>
- [5]「グーグルマップ」 <https://www.google.co.jp/maps/>
- [6]「漁業センサス 2003 年(第11次)漁業センサス 確報」 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/fc/2003/>